

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401657		
法人名	有限会社 DARIYA		
事業所名	愛の家 グループホーム 札幌星置		
所在地	札幌市手稲区星置3条9丁目8-11 (電話) 011-688-3390		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月31日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人, 非常勤 3人, 常勤換算6.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	暖房費(10~4月)	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無	月7,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	<input type="radio"/> 有 / <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	14名	男性 4名	女性 10名
要介護1	3名	要介護2	5名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 78歳	最低 52歳	最高 90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮の沢ファミリークリニック・ゆき歯科・北都病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

従来のDARIYAから、運営母体と事業所名が平成19年5月に変わり、ホーム長はじめ職員がほとんど変わり、新たな思いで理念が変更され、利用者本位のケアに取り組んで活気のある姿勢が見られる。建物は明るく、特に居間兼食堂は広くゆったりとして、利用者も職員も落ち着いて馴染みの関係が確保され、楽しく生活している。毎月発行している「たより」に見られるように、屋外や外出など、利用者の笑顔が沢山見られる外出があり、楽しい企画が実施されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価後、経営が変わり、職員の変更や理念の改訂などに種々の改善がされている。また、職員が一致して評価への取り組みがなされている。特に、申し送りや利用者一人ひとりの経験を活かした取り組みなどが改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>新鮮な視点で早くから各項目について検討し、職員は会議等で話し合っ て改善にむけて取り組んでいる。なお、不安な点については、法人の指導 が得られる体制になっている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の主な討議内容は、事業所からの報告が多いが、出席者からの意見による行事についてのボランティア斡旋など、地域との係わりで新しい取り組みが実施された。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人は年に1回家族アンケートを実施し、家族の意見を聞くように検討している。日常的に面接時に意見を聞く機会としているが、家族の面会が比較的少ないので、家族への働き掛けを期待したい。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議を通して町内の方々や民生委員との連携ができつつある。地域に居住している職員もおり、理解が深まりつつある。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全国に80以上のグループホームを運営し、共通の理念を掲げているが、さらに事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者一人ひとりの思いを大切に安心できるケアを目指して、管理者と職員は新たな気持ちで取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会の加入し、町内の行事に職員と希望する利用者は可能な限り参加して交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年度、事業所は運営母体や名称が変わり、職員も変わったので、項目について早めに取り組み、新鮮な眼で改善に向けて検討している。		

札幌市 愛の家グループホーム札幌星置

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して地域の方々から事業所にとって前向きな意見やボランティアの協力を得るなど利用者も職員も笑顔が多くなった。家族の会議への参加が得られていないので参加を呼び掛けている。	○	運営推進会議に家族の参加を望みたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は名称の変更などもあり、行政と連絡を密にして、サービスの質を高める取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「たより」を定期的に発行し、家族に届けている。しかし、内容は利用者の写真が大部分で職員の異動などの報告はない。	○	事業所から発信の手段となるので、内容について利用者の写真のほかにお知らせのスペースなどを検討し、改善されることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、職員と気軽に話し合いをしており、さらに「意見箱」を設置している。また、法人は年に1回家族アンケートを実施し家族の意見を広く聞くようにしている		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が不穏にならないように、退職に至るまで引き継ぎなど丁寧にし、徐々に交替するように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は隔月開催され、職員はできる限り参加して学びを深めている。外部研修については、費用は事業所が負担し希望者は交代で出席できる。また、会議等で報告をして、ほかの職員も内容を知れるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内にグループホームが数カ所あるので、具体的に職員の交換をしたり交流をもっている。同業者との交流までには至っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は問い合わせから入居に至るまで納得のいくまで見学や話し合いなど家族とともに取り組み、職員側も検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日常の生活の中で利用者ができることを把握して、自主的にできる環境を作り、ともに感じ、学び、喜びを共有する関係作りを支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者の思いの把握に努力し、会話の中から本人本位の介護計画に添うように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、担当制になっているが、本人、家族、関係者など多くの方々と話し合い、利用者の希望に沿うように介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヵ月ごとに介護計画の見直しをしている。しかし、状況が変化した場合は期間に限らず、即見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や理美容院への外出など臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が以前から受診している馴染みの医師との関係を持ちながら、協力病院の定期的な往診など、健康面の安心を得るように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個別対応の中で、「重度化した場合の対応にかかる指針」の説明と話し合いで取り組みを検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各居室にトイレが設置され、排泄介助など個別に対応しプライバシーが確保されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしを職員のペースでなく、利用者の希望に添ってどのように過ごすかに配慮して、利用者本位に決めてケアしている。		

札幌市 愛の家グループホーム札幌星置

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	明るい食堂で利用者も協力して食卓が整えられ、職員とともに歓談しながら食事を楽しんでいる。片付けなども積極的に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	落ち着いた色合いの浴室で、利用者は希望に合わせた入浴支援を受けて満足している。週2～3回入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の端はしに利用者が協力して作成した飾り物や手芸品が飾られている。また、個別に役割が決められて、意欲的に家事や日常の手伝いなど張り合いのある過ごし方を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ユニット内の廊下には屋外行事での嬉しそうな利用者の写真が掲示され、行楽地やレストランなど外出支援が多数見られる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所はユニットごとに外玄関が設置されているが、鍵は夜間のみ施錠されている。開閉が把握できる工夫が施されている。		

札幌市 愛の家グループホーム札幌星置

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署と連絡を取り、避難訓練の実施など記録も分かりやすく記載されている。地域の人々の協力を得られるように検討し取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、全国統一で法人が一括して作成している。事業所では利用者の希望や季節感を考慮して変更し、馴染みの食卓を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は、全体的にゆったりしたスペースが確保され、車椅子利用者も安心して過ごせる。トイレは各居室に設置され、利用者にとって安心の造りとなっている。また、自然に囲まれ四季折々楽しめる環境になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各自使い慣れたベッドや家具を持ち込み、本人が落ち着いて安心して暮らせる居場所になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。